

検診結果を どう読むか？

糖尿病内科
田村クリニック
南大沢メディカルプラザ
やまぐち じゅん
山口 純

日本糖尿病学会糖尿病専門医
日本内科学会認定内科医
医学博士



糖尿病についての検診では、尿糖・血糖値・HbA1cが測定されます。

糖尿病では早期発見・早期治療が重要です

尿糖：血糖値が高くなると尿糖が陽性となることから、間接的に高血糖がわかる検査です。ただし個人差が大きいため、尿糖のみで糖尿病かどうかの確定診断はできません。

糖尿病の患者さんの中には、「まだ大丈夫」「糖尿病の気がある」などと言われ安易に放置されていたり、自己流の食事療法や運動療法で悪化させてしまい、進行した糖尿病となつてから受診される方がおられます。

血糖値：空腹時血糖値の正常は110mg/dl未満です。126mg/dl以上の場合、糖尿病の可能性が非常に高くなります。110～125mg/dlが境界ですが、100～109mg/dlの「正常高値」の場合でも、精密検査で糖尿病が見つかることがあります。特にメタボ（内臓脂肪型肥満、ビヤ樽体型）の場合は要注意です。

境界型や発症早期であれば、少しの治療で改善する事が多いのに比べ、すい臓の機能が低下してからは治療効果が乏しく、合併症が進んでしまつてからではさらに大変です。安易に放置せず、治療のチャンスを見逃さないことが重要です。

ブドウ糖負荷検査のススメ

糖尿病が疑われたら、迷わずブドウ糖負荷検査を受けてください。ブドウ糖を飲んで2時間後に採血するだけの簡単な検査です。ブドウ糖負荷検査を積極的に行っている点において、わが国は糖尿病診療の先進国です。

HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)：過去2カ月間ぐらゐの血糖値の平均が反映される検査で、高血糖が長期間続いている場合に高値となります。糖尿病の診断に用いられるだけでなく、治療中の方の血糖コントロール状況の指標として用いられます。